

第 63 回国際理解・国際協力のための全国中学生作文コンテスト東京都大会 銀賞

創価中学校 1 年

酒井 翠

課題②

「核兵器のない世界」に向けて国際社会ができることは何か。

副題

核兵器のない世界を目指して

私が核兵器の本当の恐ろしさを知ったのは、小学 6 年生のときです。私が通学していた小学校に、お父さんが被爆者の原爆 2 世である「原爆先生」という方が来ました。そのときに原爆先生から聞いた戦争の実態は、今でも忘れられません。

原爆先生は、お父さんから聞いたお話をもとに、写真や動画、話し方などを工夫して、1 人でも多くの人に核兵器の恐ろしさや戦争の悲惨さを伝えようと、多くの学校を回って特別授業をしています。お父さんが体験した広島での壮絶な戦いを声などを変えて生々しく語っていたり、原爆とはどのようなものなのか、そもそも原爆はなぜ作られたのかなどの原爆の威力を丁寧に解説してもらいました。

思わず耳を塞いでしまいました。原爆が炸裂する音を耳が張り裂けるような低く大きな声で表現していて、怖い気持ちでいっぱいになりました。しかし、実際はその数 100 倍、数 1000 倍の衝撃だったでしょう。皮膚が焼けただれてめくれ、体から垂れ下がってしまっている人々。多くの人が亡くなって地面にはそこら中に死体があり、一瞬にして変わってしまった街。これらは日本で本当に起きたことなのです。その時のけがだけではなく、被爆した後遺症により長期にわたってさまざまな障害に苦しんでいる人や、被爆から長い年月を経てから症状が現れて亡くなる人が現在もいます。また、自分や家族が被爆したことで差別をされたり、自分の被爆が子供に影響することへの不安を抱えながら過ごしてきた人が大勢います。私は、原爆先生の特別授業という初めて原爆について深く触れた体験を通して、原爆という核兵器の恐ろしさを知り、感じるとともに、人々の笑顔と暮らしを一瞬で奪ってしまう核兵器が地球上で二度と使われてはいけなくと強く思いました。そして、それは核兵器だけではなく、自衛や利益のために暴力で人を殺し合い、原爆が日本に投下される原因にもなった残酷な戦争も決して起きてはならないと思いました。しかし、ウクライナとロシアの戦争をはじめ、今も世界中の様々な場所で紛争が起きています。自分が住んでいる国の中で突然内戦が起き、別の国へ避難しなければならなくなった人、突然大切な人を失って深い悲しみを味わう人など、辛い思いをしている人がいるのです。

では、そんな戦争をなくし、「核兵器のない世界」に向けて、国際社会ができることはあるのでしょうか。そもそも戦争は、双方の意見の違いから生まれてしまいます。自分と違う考えを受け入れられ

ず、攻撃をするというのは平和から遠ざかってしまいます。そこで、私は、対話をしていくことが大切だと考えました。歴史や生活の仕方、価値観などが異なる色々な国の中で違う意見が生まれるのは当たり前のことです。それでも、その意見を否定するだけではなく、他者の考えを認め合い、その考えを対話によって深く知ろうとするべきではないでしょうか。そうして話し合いを重ねることで、世界の各国の絆はより強いものになっていくと思います。そして、争いのない、世界中の人が笑顔に暮らすことができる世界を願って、日本であった原爆の悲惨な出来事を伝えることから私は始めていきたいです。